

2017年2月12日(日)朝10:10
2月第2共同主日礼拝式説教

主の降誕節第8、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：第7の封印について、 生き残った人々

聖書：ヨハネの黙示録 11章1～14節

<口語訳>

新約聖書396～397頁

ヨハネの黙示録 11章1～14節

<新共同訳>

新約聖書464～465頁

ヨハネの黙示録 11章1～14節

<新改訳第3版>

新約聖書487～488頁

ヨハネの黙示11章1～14節<塚本訳>

新約聖書799～801頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判を告げ、創造主へ誓い、ヨハネが天使の手から受け取って巻物を食べた箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録11章1～14節は、2人の証人の奉仕と殉教をヨハネに啓示の箇所。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第11章1～14節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録11章1～6節；ヨハネは、2人の主の証人の働きを啓示されました。

◇1～14節；塚本訳◆二人の証人—メシヤ来臨の準備

「1 そして(命令により)杖のような(一本の)間棹が私(の手)に渡されて、(天使がこう)言う(のを私は聞いた、「起って(エルサレムにある)神の聖所と(燔)祭(の)壇と其処で礼拝をしている者達とを測れ。

2 ただ聖所の外の庭(すなわち異教人の庭)を除け、それを測るな。それは異教人(の荒らす)に任されたのであるから。(彼らをしてエルサレムを懲らさしめる。)彼らは四十二か月の間(この)聖なる都を蹂躪るであろう。

3 そして我は我が二人の証人(モーセとエリヤと)に、(預言する)権を与える。彼らは荒布を着て千二百六十日の間(悔い改めの)預言をするであろう——

4 彼ら(二人)は(聖書に誌されているように、全)地の主の前に立つ二本の橄欖の木と、二つの燭台である。――

5 もし彼らを害しようと思う者があれば、彼らの口から火が出てその敵を焼き尽くす。然り、もし彼らを害しようと思う者があれば、その人はこのようにして殺されなければならない。

6 彼らはその預言する日の間雨を降らせぬ(ようにする)ため、天を閉ずる権力を有っている。また彼らは水を変えて血となし、また思うままに(何時でも)幾度でも、あらゆる災厄を以て地を撃つ権力を有っている。」と、ヨハネは2の証人の働きを啓示されました。

◇ 1～6節 ;ヨハネは、2人の主の証人を啓示され、「二本の橄欖の木で二つの燭台であり」、「口から火が出てその敵を焼き尽くせ」、「天を閉ずる権力を有って雨を降らせず」、「水を変えて血となす力を与えられ」、「1260日、42か月」、「預言をする」ことを赦される出来事を見ました、また、「起って(エルサレムにある)神の聖所と(燔)祭(の)壇と其処で礼拝をしている

者達とを測れ」、「聖所の外の庭(異教人の庭)を除け、それを測るな」と、語りかけられたのです。

⇒「**2人の主の証人**」は、「**二本の橄欖の木**」であり、同時に「**二つの燭台**」であると、啓示されましたが、**神の栄光の輝き**を常に示す働き人でした。

⇒「**2人の主の証人**」は、「**1260日、42か月だけ**」、「**口から火が出てその敵を焼き尽くせ**」、「**天を閉ずる権力を有って雨を降らせず**」、「**水を変えて血となす力**」をもって、「**預言をする**」のが、その任務でした。

⇒その「**2人の主の証人**」の「**預言**」を聴く人と聴こうとしない人とが、「**神の聖所と(燔)祭(の)壇と其処で礼拝をしている者達を測れ**」、「**聖所の外の庭(異教人の庭)**」の人々を「**測るな**」との命令で、分けられるのをヨハネは見せられたのです。

⇒第3の最終のわざわいがもたらされる出来事の直前の**神のわざ**です。

⇒**神は、「神の聖所と(燔)祭(の)壇と其処で礼拝をしている者達**」を今日も、しっかりご覧です。

◆ 黙示録11章7～10節 ;ヨハネは、2人の主の証人の殉教をも啓示されました。

◇ 1～14節 ;塚本訳 ◆ 二人の証人-メシヤ 来臨の準備

「7 しかし(四十二か月が過ぎ)彼らがその証明を終ると、奈落(の底)から(一匹の)獣が上って来て、彼らと戦闘をなし、彼らに勝ってこれを殺すであろう。

8 そしてその屍体は大な都(エルサレム)の大通りに置かれ(人目に曝され)る。この都は靈的にソドムまたエジプトと呼ばれる。其処で彼らの主(イエス)もまた十字架につけられ給うた。

9 そして(あらゆる)民と種族と国語と国と(の人々)は三日半の間その屍体を見、その屍体を墓に葬ることを許さない。

10 そして、地上に住む者は彼ら(が殺されたこと)について喜び楽しみ、(嬉しさのあまり)互いに贈り物をするであろう。それはこの二人の預言者が(生前)地上に住む者を(散々に)苦しめ(悩まし)たからである。」と、ヨハネは2の証人の殉教を啓示されました。

◇7～10節；「(四十二か月が過ぎ)彼らはその証明を終る」、「(2人の主の証人)を奈落(の底)から(一匹の)獣が上って来て、彼らと戦闘をなし、彼ら(2人の主の証人)に勝ってこれを殺す」、「屍体は大な都(エルサレム)の大通りに置かれ(人目に曝され)る。この都は靈的にソドムまたエジプトと呼ばれ」、「其処で彼らの主(イエス)もまた十字架につけられ」、「(あらゆる)民と種族と国語と国と(の人々)は三日半の間その屍体を見、その屍体を墓に葬ることを許さない」、「二人の預言者が(生前)地上に住む者を(散々に)苦しめ(悩まし)たから」、「地上に住む者は彼ら(が殺されたこと)について喜び楽しみ、(嬉しさのあまり)互いに贈り物をする」と、ヨハネは、「2人の主の証人」の殉教の出来事を示されます。

⇒「2人の主の証人」を殺す「奈落(の底)から(一匹の)獣」は、ヨハネ黙示録12章から登場する「竜」と啓示される「サタンの仲間」です。

⇒「2人の主の証人」が「サタン」の力に対抗する力が失われたのではなく、その任務完了の結果としての殉教なのでした。

◆ 黙示録11章11～14節 ;ヨハネは、2人の主の証人の甦りと昇天を啓示されました。

◇ 1～14節 ;塚本訳 ◆ 二人の証人-メシヤ来臨の準備

「11 しかし三日半の後、生命の息が神から(出て)彼らの中に入った。すると彼らは(生き返ってやおら)足で立ち上がった。大なる恐怖が彼らを見ていた者を襲った。

12 彼ら(二人の証人)は、天から大きな声(あつて、)「此処に昇って来い」と言うのを聞いた。そして(人々の目の前で)雲に乗って天に昇った。然り、彼らの敵も(また)それを見た。

13 (丁度)その時大地震があつて、都の十分の一が倒れ、七千人の者達がこの地震で殺された。(生き)残った人々は(これを見て非常に)懼れ、(悔い改めて)天の神に栄光を帰した。

14 (かくして)第二の禍は過ぎた。(しかし、この悔い改めはほんの一時であつた。だから)視よ、第三の禍が直に来る(であろう)！」と、ヨハネは2の証人の復活を啓示。

◇ 11～14節；「三日半の後、生命の息が神から(出て)彼らの中に入った。すると彼らは(生き返ってやおら)足で立ち上がった。大なる恐怖が彼らを見ていた者を襲った」と、「(二人の証人)は、天から大きな声(あって、)「此処に昇って来い」と言うのを聞いた。そして(人々の目の前で)雲に乗って天に昇った。然り、彼らの敵も(また)それを見た」とあり、その昇天の後、「大地震があって、都の十分の一が倒れ、七千人の者達がこの地震で殺された。(生き)残った人々は(これを見て非常に)懼れ、(悔い改めて)天の神に栄光を帰し」、「第二の禍は過ぎ、第三の禍が直に来」ますと、「2人の主の証人」が、復活し、天の声を聞き、雲に乗って天に昇って行く姿をヨハネは見ました。

⇒旧約では、エゼキエル37:1～6で、枯れた骨に主の息が吹きこまれて生き返る出来事があり、新約の福音書では、**神の御子の復活**が記録されています。

⇒ここでは、「2人の主の証人」を**殉教させた人々が、天への昇天の姿を見る**のです。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讃美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判を告げ、創造主へ誓い、ヨハネが天使の手から受け取って巻物を食べた箇所です。

◇ヨハネの黙示録11章1～14節は、2人の証人の奉仕と殉教をヨハネに啓示の箇所です。

⇒神の裁きは、「神に聴き従うことを拒む者」、偶像礼拝とその結果の不品行の罪に対して及びます。

⇒併し、神の圧倒的な恵みによって「神の子」と呼ばれ、「額に神の印を受けた者」と認められ、「今あるは神の恵み」と、神に感謝し、讚美できることを喜び合いたいとねがいます。

⇒神の恵みは、「強い天使」が、「雲、虹、太陽」で示し、神の厳しい裁きの中でも、不変であることを身をもって証言しました。

⇒「(エルサレムにある)神の聖所と(燔)祭(の)壇と其処で 礼拝をしている者達」を教会とし、「聖所の外の庭(すなわち異教人の庭)の人々」を「偽教会」とする理解もありますが、この艱難を地上で味わうという立場の人々に共通しているものです。

⇒アライアンスでは、この艱難の時には、すでに天の教会とされ、患難を回避する恵みに与っている立場に立ちますので、ユダヤ人

信仰者の**神礼拝者**と**神礼拝拒否者**に分けられるのです。

⇒併し、現実の教会での「**神礼拝者**」を常に見守り、その**神礼拝者の数**を数え、**神の救いと恵み**を溢れるほど注ぎつづけていて下さることを覚えたいと願います。

⇒また、「**2人の主の証人**」が、殉教を覚悟で、「**1260日、42か月、3年半**」という制限の中で全力で、**神の救いの宣教**を行っていることを真摯にうけとめ、**神礼拝**を守りたい。

⇒コリント第11:21～24<宣教の力>;21この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかなっていない。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシヤ人は知恵を求める。23 しかしわたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える。このキリストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものであるが、24 召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである。